

ゆたか倶楽部 よもやま話

vol. 24

いただきます。そのため多い人では1日に10回ぐらいいは検温、消毒することになりそうです。

今回のリニエールの目玉である展望大浴場グランドスパの露天風呂が楽しみな方も多いでしょう。今回から、グランドスパの前に案内カウンターが設けられ、サマルカメラで検温後、スタッフからロッカーの鍵を受け取るスタイルになりました。入浴できる人数は決められたロッカーの数ということです。また、バスタオルやハンドタオルはロッカー内に用意されています。

ダイニング会場をはじめ、飲食が行われる場所では、同室以外の人とテーブルをともにすることはできません。それはお仲間であってもご家族でも同じです。それぞれのテーブルの間にはアクリル板が設置されていますので、それを越えてまでのおしゃべりはできないと考えていただく方がいいでしょう。メニューはテーブルに置いてあるQRコードをスマートフォンで読み取る非接触スタイルです。もしうまく読み取れなかった場合は紙のメニューも用意してありますし、相談窓口もありますのでご安心ください。リニエールで船内のWi-Fi環境が整い、デジタル化、ペーパーレス化があらゆるところで見られます。これもwithコロナ時代に合っているでしょう。ダイニング会場での

結婚記念日や誕生日のセレモニーは当面中止になっています。朝食や夜食などのbuffetは中止になり、全てセットメニューでのご提供になっています。

横浜港大さん橋国際客船ターミナルでの会見では、中野裕也横浜市長より「国のガイドラインにウイルス検査は入らなかったが、神奈川県が開発した検査法『スマートアンプ法』を郵船クルーズが採用してくれた。英断だ」と挨拶がありました。郵船クルーズ坂本深社長は日本のクルーズ業界をリードする立場として率先してウイルス検査を乗船の必須条件とし、日本船の他2船も追隨しています。「考えられる最高レベルの安全対策を取った。まずは感染者の乗船を防ぐことを徹底する」として、飛鳥Ⅱでは、乗組員は乗船前にPCR検査を2回以上、クルーズ再開後も定期的に受検。乗客は唾液による通信タイプのキットでPCR検査を受けていただきますが、日本船3船とも同一型なので、旅行会社としてはお客様への案内もスムーズにできると感じています。ただし、検査結果を知るにはメール登録が必要なので、弊社では登録代行を有料で行っています。船会社と弊社が協力し合い、徹底したコロナウイルス感染予防対策の上でクルーズを楽しんでいただけますよう、努めてまいります。

去る11月2日、郵船クルーズは飛鳥Ⅱの運航を再開しました。2019年12月26日からの「ニューイヤークラム・サ

イパントクルーズ」を実施後、シンガポール「センブコプマリ」にドック入りし、硫黄酸化物排出量を86%削減できるエンジンに入れ替えるなど大規模な改装・改造工事を約2カ月かけて行われましたが、その最中に新型コロナウイルスの感染拡大により運航停止を余儀なくされました。そして約8カ月ぶりの運航、約半年遅れのリニエールお披露目、感染予防対策のお披露目の場にもなりました。10月下旬には業界関係者向けの横浜発着トライアルワンナイトクルーズに

弊社社長が乗船しましたので、今回はその話をいたします。

以前はカテゴリークラスやデッキごとの乗船受付をして



飛鳥Ⅱ

いた飛鳥Ⅱですが、今回からお客様の密集を避けるために、客室タイプごとをさらに右舷・左舷・前方・後方の2×4分割しています。お一人ずつ対応を行っていくため、受付から乗船までかかる時間は約20分と以前より時間がかかります。健康チェック票の確認と検温、そしてすべてトレーを利用して直接物に触れないように配慮しているので時間がかかります。乗客人数は最大872名のところをソーシャルディスタンスの確保のため、当面の間は乗船定員数を半分以下の400名に制限されていますが、全員乗船まで今までの2倍の約90分ほどはかかっているように感じます。

船内ではレストランやショップなどの各パブリックスペースの入口に動線や待機位置の案内の印があり、サマルカメラにクルーズカードをかざし、顔を近づけて検温します。もし37度以上の場合には乗組員よりお声がけの上、対応させていただきます。37度未満のお客様は手をかざすだけでアルコールが噴出するセンサー式で手指を消毒してい